



from 東北

全国諸教会の皆様、日頃からお支えと励ましをありがとうございます。最近大きな地震が頻発し、東北でも東日本大震災を思い出して不安を覚えている人が少なくありません。特に福島での原発事故収束のためにお祈りください。なお、連盟総会会期中に設置された被災地作品コーナーの売り上げは、11,800円でした。緑ヶ丘仮設住宅の作品製作者にお渡しします。ありがとうございました。今号では、緑ヶ丘仮設住宅支援の様子、亶理町訪問支援の様子をお知らせします。

福島の今 緑ヶ丘仮設支援の報告

2011年8月、当初200世帯だった緑ヶ丘仮設住宅は現在48世帯。夕方、お茶会の案内状を届けにいくと、ぽつんぽつんと電気がついており、なんとも寂しい状況です。「いつか元気に仮設を出る」ことを夢見た日々でしたが、引っ越し先は知り合いのいない再び孤独の始まりでした。来年度から避難解除になる地域が増えます。しかし、若い世代の方たちは他所で新しい生活が始まっていたり、放射能の影響を考え、故郷に戻ってくる方は少ない。「孫や子どもたちとはもう一緒に暮せねえ～仕方ねえべな・・・。ぜひ、引っ越し先に訪ねてきてね」家族や故郷の友の分断から聞こえてくる皆さんの声です。福島の子どもの小児甲状腺癌は疑いの子どもも含め175人、2巡目の検査の子どもたちからも甲状腺

癌が見つかるようになりました。徐々に増えている白血病。長期にわたる健康被害に関するストレスから、もう検診を受けたくない、放射能のことを考えたくない、知りたくない、聞きたくない、そのような声が溢れています。原発の廃炉まで100年はかかるという学者もいます。教会組織を記念して植樹した姫リンゴの木に、今年は120個もリンゴが実りました。収穫したリンゴの放射線量を測っていただいたら「不検出」。でも、その検査所には、放射能が検出されたキノコが山積み。キノコだけは以前よりも高い放射能が検出されます。いつになったら福島は安心して暮らせるようになるのだろう。月日が経てば経つほど、課題が増えていくように思うのです。心がえぐられていくような思いがするのです。

(郡山コスモス通りキリスト教会 金子千嘉世)



お茶会の様子



ギターに合わせてウォーキング



ストレッチ体操



折り紙で作ったお菓子鉢

宮城県亶理町の今

2015年11月に発行した現地支援委員会ニュースレターで、宮城県亶理町宮前仮設住宅でのお茶会の終了をお知らせしました。それは、入居者も少なくなり、お茶会を開いてきた集会所も施錠されることになったからです。しかし、私たちの教会は「仮設住宅から最後のお一人が出られるまで通い続け、励まし続ける」という目標をもって、2011年にこの活動を始めましたから、お茶会を終了しても、仮設住宅に入居しておられる何軒かのお宅を訪問し続けました。

2016年5月、いよいよ最後のご家族が仮設住宅を出られました。そして宮前仮設住宅の取り壊しが始まり、震災前の野球場の姿へと原状復帰しています。「うれしい反面、寂しい気もする」という現地の声も聞かれます。それは、この5年間支え合ってきた仮設住宅というコミュニティが、完全に壊されてなくなるという寂しさです。実際、転居先や新しい住まいで、新しいコミュニティ作りの難しさに直面している方もおられますし、せつかくの新居で引きこもってしまう高齢者もおられます。

このような状況を受けて、私たちの教会は、仮設住宅がなくなっても、仮設住宅を出られた方々のお宅を訪問し続けています。それは教会の宣教の業として、様々な課題を抱えつつ新しい生活を始められた方々に仕え、励ましていくためです。

また最近では、仮設住宅を出られた方々数人が企画している昼食会に参加させていただくこともあります。この昼食会は、仮設を出られた方々のみならず山側の地域の方々も招待して一緒に昼食を作って食べて、歌を歌ったりゲームをしたりと、津波被害に遭った海側の方々と、津波被害に遭わなかった山側の方々の関係を豊かにつなぐ役割をも果たしています。

大槌町や福島の状況に比べると、亶理町は復興も新しいステージに進んでいると感じます。しかし、見えない課題も点在しているようにも思います。これからも私たちは、この5年8ヵ月で神様からいただいた出会いを大切にして、どのように亶理町の方々と共に歩ませていただくかを祈りつつ、淡々と定期的に通い続けたいと考えています。ぜひお祈りに覚えてください。皆様から感謝して。

(仙台長命ヶ丘キリスト教会 金丸 真)



仮設を出られた方のお宅訪問



地域を結ぶ昼食会の様子



手作りの亶理名物、はらこ飯



仮設取り壊し風景